

## 第12回「日本医師会 赤ひげ大賞」受賞者紹介

(順列は北から：敬称略)

### 「赤ひげ大賞」受賞者（5名）

■千葉県医師会推薦 <sup>しみず</sup> <sup>さぶろう</sup> 清水 三郎 医師 84歳 清水三郎医院 院長



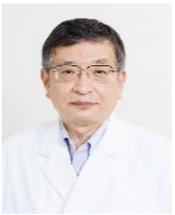
昭和56年の開業以来、千葉県内の医師数が最も少ない医療圏で医療に従事。地域の課題であった二次救急医療体制の空白日解消に取り組み、破綻の危機に瀕していた夜間救急医療体制の拡充に尽力してきた。平成21年からは、小学校入学前の小児の保護者を対象にした「子どもの救急講習会」を開始。夜間に子どもの具合が悪くなった時の対処方法や適正受診の必要性などについての理解を広げ、夜間救急診療所で働く医療従事者の負担軽減にもつながっている。

■岐阜県医師会推薦 <sup>やすふく</sup> <sup>よしのり</sup> 安福 嘉則 医師 76歳 関市国民健康保険洞戸診療所 医師



医師の定着しなかった山間地域の国保診療所に腰を据えるべく居を構え、以来41年間にわたり地域医療に心血を注いできた。隣接市町村への往診、訪問看護体制の整備や在宅医療、リハビリテーションの強化、学校保健にも取り組む。患者と医師・医療スタッフなどによるカラオケ大会の他、地域の伝統食文化を掘り起こした生活習慣病に対する食生活改善も展開。平成19年に自身が患った胃腫瘍も乗り越えなお一層、地域住民とのふれあいを大切にしている。

■愛知県医師会推薦 <sup>かめい</sup> <sup>かつのり</sup> 亀井 克典 医師 66歳 かなな病院在宅ケアセンター センター長



医師不足地域の公的病院での勤務を経て出身地の名古屋に戻り、在宅医療を中心に地域医療・介護連携による都市型地域医療の構築に尽力。多職種ICT連携ツールを普及させ、かかりつけ医相互支援による在宅看取りサポートシステムを実現させた。平成31年には総合的な在宅ケア提供の拠点として在宅ケアセンターを設立。現在、訪問診療の患者数は800名、在宅看取りは年間250名を超える。在宅ホスピスにも取り組み、地域全体の緩和ケアの質の向上にも貢献している。

■奈良県医師会推薦 <sup>たけだ</sup> <sup>いちろう</sup> 武田 以知郎 医師 64歳 明日香村国民健康保険診療所 管理者



自治医科大学を卒業後、へき地など一貫して奈良県内の地域医療に従事。初期研修医や総合診療専門医の地域研修など、後進の育成にも積極的に携わる。平成22年に同県明日香村に着任してからは村民のかかりつけ医として尽力、「イチロー先生」と呼ばれるなど、村民の信頼も厚い。在宅医療、多職種連携、医学教育、ACPなど地域医療をめぐる課題解決にも取り組み、令和5年には、同村の人々の暮らしを守る姿がドキュメンタリー映画にもなった。

■福岡県医師会推薦 <sup>きたの</sup> <sup>あきこ</sup> 北野 明子 医師 72歳 きたの小児科医院 院長



九州大学を卒業し、小児科講座に入局後、福岡市立こども病院・感染症センターで研鑽、南アフリカ共和国への留学を経て、昭和61年に開業し、一貫して小児医療に従事してきた。自身も3人の幼い子どもを育てながら、保育園の生活習慣病予防健診や予防接種の啓発活動にも取り組み、平成12年には地域で初めてとなる病児保育室を開設。令和3年には病児保育室併設の企業主導型保育所「ピッコロ保育園」を設立するなど、多職種連携による子育て支援を実践している。

### 「赤ひげ功労賞」受賞者（14名）

よこくら	としあき	(茨城県)	みずかみ	じゅんや	(神奈川県)	かわい	くにお	(福井県)	はら	まどか	(山梨県)
横倉	稔明		水上	潤哉		河合	邦夫		原	まどか	
ひまた	のぶゆき	(静岡県)	まさざわ	よしひで	(三重県)	かたやま	ひさし	(京都府)	まつお	こうじ	(和歌山県)
疋田	順之		前沢	義秀		片山	久史		松尾	晃次	
もりもと	ますお	(鳥取県)	まつした	あきら	(岡山県)	かじはら	しろう	(広島県)	すき	ひでいち	(徳島県)
森本	益雄		まつした	あきら		梶原	四郎		洲崎	日出一	
にし	せいじ	(鹿児島県)	まつしま	けんすけ	(沖縄県)						
西	征二		松嶋	顕介							

年齢は2024年1月10日現在



## 「日本医師会 赤ひげ大賞」について

「日本医師会 赤ひげ大賞」は、日本医師会と産経新聞社が主催となり「地域の医療現場で長年にわたり、健康を中心に地域住民の生活を支えている医師にスポットを当てて顕彰すること」を目的として、平成24年に創設したものです。

【主 催】日本医師会、産経新聞社

【後 援】厚生労働省、フジテレビジョン、BSフジ

【協 力】都道府県医師会

【特別協賛】太陽生命保険

### 【対 象 者】

病を診るだけでなく、地域に根付き、その地域のかかりつけ医として、生命の誕生から看取りまで、さまざまな場面で住民の疾病予防や健康の保持増進に努めている医師。日本医師会及び都道府県医師会の会員で現役の医師（ただし、現職の日本医師会・都道府県医師会役員は除く）。

【推薦方法】各都道府県医師会会長が1名を推薦

### 選考委員

羽毛田信吾（恩賜財団母子愛育会会長）  
向井 千秋（東京理科大学特任副学長）  
檀 ふみ（俳優）  
ロバート キャンベル（早稲田大学特命教授）  
浅沼 一成（厚生労働省医政局長）  
医学生 （岐阜大学、佐賀大学）  
釜 范 敏 （日本医師会常任理事）  
黒瀬 巖 （日本医師会常任理事）  
近藤 豊和（産経新聞社上席執行役員）  
河合 雅司（産経新聞客員論説委員）

赤ひげ大賞公式サイト



【表彰式・レセプション】令和6年3月1日（金）午後5～8時 パレスホテル 東京